



とつか

2022年8月会報 第334号

- 国際会長(IP) Samuel Chacko (Indea)
 2022 主 題 “Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT”
 「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」
 スローガン “BEYOND SELF and BE THE CHANGE” 「自己を超えて、変化を起こそう」
 アジア太平洋地域会長(AP) Chen Ming Chen (Taiwan)
 ~ 主 題 “Elegantly Change with New Era” 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」
 スローガン “Doing It Right Now” 「今すぐ実行を」
 東日本区理事(RD) 佐藤重良 (甲府21)
 2023 主 題 “Let's act now for the future” 「未来に向けて今すぐ行動しよう」
 スローガン “Do something for someone and have an enjoyable club life for yourself!”
 「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを！」
 湘南・沖繩部部長(DG) 小松仲史 (厚木)
 主 題 主 題 「楽しく・元気よく・前向きに」・副 題: 入りたくなるワイズにしよう
 クラブ会長 吉原 訓 会長主題「原点回帰」
 副会長 若木一美・書記 加藤利榮・会計・岡 進・メネット 吉原和子・担当主事 瀬戸俊孝

《会員ひと言》



変化の時代にあって尚 有田 征彦

ワイズメンズクラブの担当主事、YMCA 同盟スタッフとして2つの委員会に参加している。一つはワイズとYMCAのより強固な協働体制のための「パートナーシップ検討委員会」、もう一つは東日本区の「法人推進委員会」。どちらの委員会も変化する時代の中で、必要とされる団体であり続けるために懸命な議論が交わされている。

一方、YMCAがブランディングで新たなロゴやコンセプトを掲げてから、早いもので5年が経過しようとしている。そして、その時間軸の半分の2年半がコロナ禍となってしまった。新型コロナウイルスは変異を繰り返し、その対応に社会は振り回されているように思える。YMCAでも様々な影響を今なお受けながら、懸命な事業展開がされている。

もしもコロナがなければYMCAのブランディングはより進んでいたのか？YMCAブランドは社会より認知されていたのか？ワイズメンズクラブは会員減少に歯止めがかかっていたのだろうか？そのことを考えることはやめておこう…。急速な社会変化の中にあって尚、YMCAもワイズメンズクラブも変わることはないミッションの中で、よりスピード感と柔軟性を持ち、ポジティブネットのある社会を目指して歩みを進めることに変わりはない。

◎今月の聖句◎

あなたがたのうちのだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも伸ばすことができようか。

—ルカによる福音書12章25節—

「思い悩むな」といわれても悩まなくなる人はまずいないでしょう。人は、様々な問題に取り囲まれた人生の大半を「思い悩む」ことで過ごさざるを得ない生き物ですから、離れて眺めてみたら、私たちは別の人を見出すことができるかもしれませんよ…。

強読調月間 単独各2032

このコトバ、初めてこの欄に登場です。手元の東日本区発行の「2022-23年度の行事予定」の一覧表にあります。

思うに「今こそ10年先を見据えたワイズ活動を考えるときです…」といったほどの意味かと思いますが、いかがでしょう…。

後日、明確な解説・書面が出ましたら、また、さらに関連の用語が見つかりましたら、早い機会にお知らせします。

会員数		7月の会合		出席率	ファンデ		B	F	B	F	CS・TOF・A S F	B A P Y	ロ	バ
メ	ン	メ	ン		他	(円)			(g)		(円)	(円)		(円)
11		8		92%										
メネット	8	メネット	1		前月迄			0		0	0	0	0	0
		ゲストら	6		当 月			0		0	0	0	0	0
計	19	合 計	15		累 計			0		0	0	0	0	0

★強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う★



☆ 対面での第1例会～部長公式訪問～から ☆

吉原 訓

日時：7月2日(土)18時～20時
 場所：湘南とつかYMCA・1階ホール
 参加：(ゲスト) 大下利栄子・金石万希
 (ビジター)小松伸史部長 [厚木]
 兵藤芳郎・千葉裕子・日下部美幸[鎌倉]
 浦出・岡・加藤・鈴木・瀬戸・土方・吉原・若木・吉原メネット
 [とつか9名]・計15名 ~敬称略~

ブロンズ模型を設置することになったそうです。大下代表がかつて、ポルトガルを訪れた際、歴史的建物のブロンズ模型をご覧になって、‘二ホンにも…’と決心されたそうです。少しでも助成になれば…と、今年もクラブから献金させていただきます。

22～23年度がスタートしました。本年度初頭の例会、ほとんどの会員が集い、若木会長の開会点鐘が高らかに響きわたりました。

大下さんがお元気で、いつまでも活動を続けられますよう心より願っております。

本日は、大下さんのほか、おなじみのゲストやビジター5名のご出席もいただきました。ありがとうございました。

小松部長立合いのもと、若木会長から吉原へ‘会長引継式’が点鐘用ギャベルの受渡しをもって粛々と行われました。内外ともに多難な時期に会長を引き受けることになり、大変困惑しております。しかし一歩でも二歩でも、少しでも前に進んでいかなければなりません。メンバーの絆を頼りに、皆さんと一緒に歩んでいきたいと考えております。



当夜のメイン、大下利栄子代表をお招きしての卓話を頂きました。視覚に障害のある子どもたちが、指で触れて楽しめる絵本作りを永年にわたって進めておられる方ですが、このたび鎌倉の建長寺境内に伽藍のミニチュア

☆ 第1回部協議会から ☆

吉原 訓

日時：7月23日(土)15時～17時
 場所：湘南とつかYMCA・1階ホール
 参加：小松・黒川(z)・若木・板崎・岡・古田(z)・古賀(z)・池田(z)・千葉・日下部・佐藤・川口・吉原・加藤・峯尾・黒川(z)・阿部・今城(z)・辻(z)・横田(z)・久保(z)・山田(z)・鈴木 [(z):ズーム参加・敬称略]

(第5号議案) 2022-23年度会計予算案：小松部長
 (第6号議案) 次年度次期部長の選出について：同
 (第7号議案) エクステンション委員会、委員長、各委員及び関連する承認済み諸議案の任期延長の件：
 辻 剛エクステンション委員会委員長

年度が改まっての第1回部評議会が、ZOOM・対面併用方式で開かれ、開会礼拝・評議会成立要件確認ののち、本題に入りました。

各議案とも、2、3の質疑ののち、いずれも賛成多数により、承認された。なお、第7号議案については、ZOOM参加の辻委員長の、終始熱意のこもった提案趣旨・内容につき、エクステンションの現状等に関する概要を良く理解することができた。

議事は、提案された以下の7議案、いずれも前期関係と今期の事業に関する提案・承認を求めたもので、熱心な質疑の後、すべて承認されました。

議事に引き続き、報告・連絡事項では、① 7月9日に開催された区役員会の状況報告(小松)、②6月2日に開催された第25回インターナショナルチャリティーラン実行委員会報告(阿部)、及び、板崎部書記から、部費の納入に関する件の報告・依頼がなされた。

- (1号議案) 2021-22年度事業報告：若木直前部長提出
 第25回部大会・部評議会(3回)・Y-Y's協議会(3回)・7クラブ公式訪問・第28回AIDS文化フォーラム・第24回インターナショナルチャリティーラン・部研修会・部報発行(年2回)・区との関連事業への出席・参加。内容等。
- (2号議案) 2021-22年度会計決算報告：若木直前部長提出
- (3号議案) 2022-23年度行事予定：小松部長提出
- (4号議案) 2022-23年度個別行事について：小松部長提出

終りに峯尾監事から、この種会合も対面の方が、及びこの監事役も時に交替が望ましい。」旨の講評があり定刻散会した。



今年度の部大会は、講師に、かつての“あさま山荘事件”で当時、警察官として事件解決に当たられた富田俊彦氏をお迎えしての講演会を開きます。間違った思想で、当時の若者たちの先鋭化した実態がお話いただけます。

☆まずは自己紹介から☆



湘南・沖縄部部長 小松仲史 (厚木)
まずは自己紹介から…。

私は、東京都新宿区下落合で生まれ東中野で育ちました。父は熱心な仏教徒で、お彼岸の中日に生まれた私が、この先きっと出家するだろうと、‘仲史’と名付けたと聞いております。一方、母はキリスト教徒で、私が子供のころに、よく父からは、「キリスト教は間違ったことをしても、懺悔すれば許されるけど、仏教は滝に打たれて修行する…」と話していました。母方の祖父は甲府YMCAと関わりがあったと聞いております。その関係で、母は甲府YWCAで生まれたと言っていました。家業は街の電気屋さんでしたが、私が、中学3年になった5月に亡くなり、当時高校3年だった兄と母親との三人で家業の電気屋を継ぎました。そのころはまだホームセキュリティというものがなく、電気屋さん泥棒に入られた！と言われ、窓やドアが開くとベルが鳴る装置や‘非常押しボタン’装置を自作して設置しました。結婚を機に独立したセキュリティー専門会社を立ち上げ、現在に至っております。

さて、ワイズ歴ですが、きっかけは、佐藤節子さんに声を掛けられ、入会間もない2014年6月、浅草での東日本区大会に参加しました。その時の印象は多くの皆様のなんと素晴らしいことかと大変感激したのを思い出します。様々な地域の皆様との触れ合い、こよなき仲間としての関係を紡いでいけるワイズメンズクラブに大きな喜びと希望を頂きました。

ところで、私が、部長として考えていることがあります。会員増強について、若い方々が自然と入りたくなるようなワイズメンズクラブの活動をもっともっと多くしていければ良いが…と考えます。それを実現・実行していくために、若い会員同士の交流の場を作り、意見を出し合い。行動していく場が作れると良いかなと思っています。諸先輩の皆様からのお知恵・ご意見を頂ければと思います。

これからの1年間、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

～小松部長に、「なにが部長さんとしての感想など書いていただけますか…。」とお願いしたところ、上の長さ程のモノが4枚ほどメールで送られてきました。

…というのであれば…と、今月号から3回に分け本欄に載せさせていただこうと思います。

今月号は、差し当たり“その1”ということになりますか…。その2. その3… が楽しみです。(B/E) ～



☆次なる一手…☆

加藤利榮

今から2年ほど前の2020年後期において、沖縄那覇の玉城会長名で、湘南・沖縄部部長宛てにクラブ活動の休止に関する書面が提出され、以来すでに満2年が過ぎようとしております。この間に在って、部としては手をこまねいていたわけではなく、主に部エクステンション委員会(辻剛委員長)が中心となり今後の対応など協議してきましたが、ここで、果たしてご参考になるか否かはさて置くとして、わたしなりに、その経過等につき、時系列的にまとめてみました。

- 1) おきなわ考：1987年・もあい講を中心に、活動休止から区に復帰するまでの経過の状況 (21,8～10月号所載)
- 2) ‘おきなわ’に思いを馳せて
部選出の沖縄5人衆(久保・浦出・菅沼・若木・加藤)が初会合 (22.1月号所載)
- 3) おきなわグローバルクラブ構想を鈴木茂さんが発表され論議を呼ぶ。 (22.2月号所載)
- 4) ‘Yがつなぐ不思議な出会い’横山良一氏の投稿 (22.3月号所載)
- 5) ‘キーパーソン大作戦’辻剛委員長の投稿 (22.4月号所載)
- 6) ‘沖縄ワイズの復活を心より願って’知念一郎氏の投稿 (22.4月号所載)
- 7) ‘東日本区大会から20年が…’大森節子さんの投稿 (22.5月号所載)
- 8) ‘沖縄YMCA時代を振り返って’上間かな恵さん投稿 (22.6月号所載)
- 9) ‘首里城炎上’小原武夫さん投稿 (22.7月号所載)

…と、以上のような状況になりますが、‘もあい’当時から現地に関わりお邪魔してきた私としては、当事者ご本人らは申すまでもなく、後ろに控える若い人たちにも何とでも一声お掛けいただき、地元YMCAのためにも必要欠くべからざるグループであることを口を酸っぱくしてでも申し上げたい考えです。そして、写真にあるようなエイサーを声高らかに、皆さんと歌い上げていきたいモノです…。





～リーダー会の新たな活動～ 瀬戸俊孝

YMCA では大学生や専門学校生を中心とした35歳までの若者のことを「ユースリーダー」と呼んでいます。水泳・サッカー、学童クラブなどのクラスに関わっている指導者を「リーダー」と呼んでいますが、今回は指導だけではなく、リーダーたちが自主的に地域の課題と向き合って活動している様子を紹介し

ます。2022年度湘南とつかYMCAのリーダー会の有志がYMCA東とつかセンターと協働で『地産地消・環境・食育』などの課題に着目して活動するアクションがスタートしました。目標や計画を立てる中で、まずは自分たちで「農作業をしてみよう!」ということになり、今回、YMCA東とつかセンターが契約している農園で一緒に農作業をしました。最初は、育ちすぎてしまった野菜を収穫して、新しく畝を作る準備です。汗をかきながら、草むしりや土を耕しました…。きれいになりました!持ち帰った野菜はどのように料理して食べようか、作業だけでなく、食べる楽しみもあります。

今後もリーダーたちの活動は継続的に報告してまいります。野菜の育つ様子もお楽しみに! YMCAはボランティア活動を通して、多くの人と関わり社会参加をし、リーダーが将来、よりよい社会を築いていくひとりになることを願い、共に活動してまいります。

今後もリーダーたちの活動は継続的に報告してまいります。野菜の育つ様子もお楽しみに! YMCAはボランティア活動を通して、多くの人と関わり社会参加をし、リーダーが将来、よりよい社会を築いていくひとりになることを願い、共に活動してまいります。



今月の歳時記

【今月の歳時記】 ‘盆踊り’

俳句では、踊りと言えば盆踊りを指す。

俳句では、‘踊り’といえは‘盆踊り’を指します。

普通、お盆の13日から16日にかけて、お寺の境内や町の広場、海岸の砂原などで行われる。近所の老若男女が大勢集まって、輪を描いて踊ると、夜が更けるのも忘れる。元来は念仏踊りに、小町踊りや伊勢踊りの要素が加わったもので、盆に招かれてくる精霊を慰めこれを送る踊りといわれている。12年前の2010年MM21地区で開催の国際大会を思い出します。

踊りゆく踊りの指のさす方へ	多佳子
匂ひ来る早稲の中より踊りかな	言水
六十年踊る夜もなく過ごしけり	一茶
盆踊り果てて海鳴り届きけり	夢亭
佐渡おけさこれで終わりや盆踊り	久子

◎ 8月16日(火)・18時:第2例会(事務会)

今月はコロナ禍がなくても、例年、休会月です。ムリのない事務打ち合せ会を考えております。追って、瀬戸担当主事から連絡申し上げます。熱中症にもお気を付けください。

Happy Birthday

～該当者なし～

盛夏雑感

“ボクたちは軍国少年だった!”



先だって、畏友の木村利人先生から、「ボクたちは軍国少年だった!」と題した単行本を貰った。木村先生とは、何年前の部大会で横浜にお出でいただいた折にお会いしたのがきっかけとなり、年配も近い

こともあって、様々な分野でお付き合いいただいています。先生は、今でも生命倫理学会の権威として早稲田大学の名誉教授であり、一方、本の中味は、戦時下の暮らしから学童疎開・進駐軍将校との出会いなど、当方の気持ちと一々納得づくです。今、たまたま横浜YMCAが毎月、月初めに刊行している‘YMCA ニュース’に私の戦時中の手記が連載中のこともあって、先生のご本は一気に読み終えました。例の‘幸せなら手を…’の源はいずこに…との思いに駆られながら、…。

先生が、フィリピンでボランティア活動の最中に、自分たちの敵だったことが分かった現地の青年たちが、やがて‘幸せなら…’と手を差し伸べてきたいきさつが手に取るように理解できました。

かつて、当方が軍国少年時代に、エイゴの教師がたまたま米国籍2世だったのをスパイ呼ばわりしてからかったり、月曜日の朝一番で実施されていた軍事教練に心はずませて参加したり、農村動員や工場動員で、滞在した農家などの食べ物に不平を言ったり、この軍国少年、今に考えただけでも、大きな罰当たり少年だったのではないかと、今更ながらホリを噛む思いがする。

終戦の日を迎えるたびに、鎮魂の意義を心に、偶感のひとかけらと、ご理解いただければ幸いです。

加藤利榮

〈後記〉 収まるどころか ますます… の昨今です。皆さま 心を引き締めて まいりましょう。そして 涼風立つなかで 元気なお姿にお会いできるのを…

(B/E)